

**幕張新都心モビリティコンソーシアム 中間まとめ報告会  
議事要旨**

時間： 2024 年 10 月 3 日(木) 14:00～15:20

場所： 千葉市役所新庁舎（高層棟 2 階）XL 会議室 201～203/オンライン併用

---

議題

- (1) 各 PT の進捗報告
- (2) 各社の取組み紹介
- (3) 2024 年度千葉市事業

配布資料

資料 1 幕張新都心モビリティコンソーシアム中間まとめ報告会資料

議事内容 ( ) は発言者

**1. 開会**

**2. 議題**

- (1) PT の進捗報告
  - 損害保険ジャパン様より「自動運転バスによる回遊性向上 PT」について説明。
    - 今年度、国土交通省の補助金を活用してニーズ、事業性、技術面、安全面の観点における実証実験を行うこととしていたが、不採択との結果となった。
    - 今後の事業の見通しが立てづらい状況とのことから、コンソーシアムでの検討は中止することとし、PT は解散することとした。

**【質疑応答】**

(質問：千葉共同印刷様)

- 自動運転の座組において、自動運転バスの所有やランニングコストの負担などは、どのように調整したか。
    - 自動運転バスは、購入費以外にも維持費や充電設備を要するなど議論すべきことが多く、最終的な結論まで至らなかった。
- (2) 各社の取組み紹介について
    - ① ジオテクノロジーズ様より資料に沿って説明。
      - 位置情報データ全般を扱っており、主に大規模人流データや分析サービスを提供している。
      - 当社開発のアプリを活用している月間約 400 万人のユーザから提供される位

置情報をもとに、様々な統計分析を実施している。

- これまでの事例として、新たな交通網により人流や周辺道路の交通量の変化などを分析しているほか、移動手段の割合や回遊エリアの変化なども分析している。
- また、特定のエリアを訪れた方を対象にアンケートを配布し、意識調査も組合わせた解像度の高い分析も可能。観光地の分析等に活用可能となっている。

#### 【質疑応答】

(質問：事務局)

- 人流データ取得とアンケートの実施はともにアプリを活用していると思うが、どのようなアプリで行っているのか。また、人流データの取得について、特に細かいデータが取得可能などエリア別の強みはあるか。
  - 移動や歩数に応じてポイントを取得できるアプリなどをメインに、ユーザーにアンケートを依頼している。
  - エリアごとの強みについては、当社の特徴として全国平均してユーザがいるので、どのエリアでも人流統計分析やアンケートの実施が可能となっている。

#### ② TMJ 様より資料に沿って説明。

- 当社は新領域のモビリティビジネスを支えることで、さらなる発展と暮らしやすい社会づくりに貢献したいと考えている。
- そうした理念のもと、モビリティビジネスに特化した専門の BPO センター「Mobilish(モビリッシュ)」を開設しており、モビリティ対応に特化したカスタマーサービスやバックオフィス、新しくサービスを立ち上げた事業者等に向けた運用設計等のコンサルティング、自動化・効率化をサポートするデジタルソリューションを提供している。
- また、高齢化社会に備え、東京大学産学ネットワークに参画し、コンタクトセンターのあり方を研究している。本研究を通じて得た知見をもとに、高齢者の方が聞き取りやすいツールを開発し、社内での研修に活用している。

#### 【質疑応答】

(質問：事務局)

- オンデマンド交通の利用ができるアプリ「いつモ」は、ダウンロードして試しに試してみるができるか。
  - ダウンロードできるが、石狩市内のサービスなので、UI などを確認することしかできない。
- モビリティは高齢者以外にも外国人の方も利用すると思われるが、外国人対応の取組みは行っているか。
  - 専任の人員を置くとコストが高くなるので、現在は 3 者間通話により対応し

ている。ただ、今後は大阪万博が控えているなど外国人の方の利用が一層増えると思われるので、サービスを検討しているところ。

- ③ 幕張ベイトウン自治会連合会様より資料に沿って説明。
- 幕張ベイトウン・ベイパークは、地域内を横断する移動手段が不足しており交通弱者に配慮した移動手段が欠如していることから、交通弱者が利用でき、地域コミュニティの Well-being を促進する取組みとしてグリーンスローモビリティの実証実験を千葉市と連携して行っている。
  - 産官学と連携し、グリーンスローモビリティ通じて、だれもが安心して移動できる Well-being な街づくりを目指しており、住民全員で未来の街のあってほしい姿をビジョンとして形にしている。
  - 今後、地域のグリーンスローモビリティを次世代モビリティと連携することで幕張新都心の課題解決、住みやすい未来を構築していきたいと考えている。

#### 【質疑応答】

(質問者：京セラ株式会社様)

- 利用者はどの程度いるか。また、住民のどのような方がどのようにグリーンスローモビリティを利用しているか。
  - 4月から地域のイベント時に運行しており、累計で約600名が利用している。
  - 利用者は交通弱者以外にも、ペットと共に乗る方や住民以外の方も利用している。また、ベイパークとベイトウンの行き来でもよく活用されている。
- 運賃は無料と思われるが、今後もボランティアに協力してもらいながら、自治会が費用負担して運行していく予定か。
  - 運行に要する費用の全体を踏まえる必要があるが、若葉区での企業からの協賛金を得ている事例などを参考に検討していきたい。

#### (3) 2024年度千葉市事業

- 千葉市より資料に沿って説明。
  - ① デジタルツインを活用した自動運転事業
    - 現実世界では実施できない運行計画について、デジタルツインを活用したバーチャル実証実験を10月以降に行う予定。
    - デジタルツインで再現するルートは、交通量の多い交差点や路上駐車が多い道、車線減少のある道など、自動運転を行う上での課題解決に向けた実証ができるように選定している。
  - ② 千葉市事業（補助金）
    - 国からの交付金が大幅に削減されたことを受け、未来技術モビリティ社会実装サポート事業は当初の補助上限21,000千円から5,000千円に縮小となった。

- 自動運転モビリティ実証委託については、国土交通省の補助金が不採択となったが、デジタルツインを活用した自動運転事業の委託の範囲内で走行実証を行う予定となったため、今年度の執行予定はなし。

(質問：なし)

### 3. 連絡事項

- 事務局より、以下の点を説明。
  - 本日の資料及び議事要旨の千葉市ホームページへの公表について説明。
  - 2024年度の総会は、来年3月に開催する旨説明。

### 4. 閉会

以上